

5. くらし

	タイトル	意見等
1	増え続けるペットショップに疑問…	動物愛護や殺処分0を望む県内外の人が多くにも関わらず、なぜか続々とペットショップが増え続けていることに矛盾を覚えます。既に一部海外ではショップ販売を禁止されていたりもします。 早い子は数日、でも長い子は数ヶ月ショップで管理されているのを目にします。大事な時期を大してしつけもされず、大きくなり、買われた頃にはしつけづらくなり…と悪循環につながらないでしょうか?! だいたい1店舗あたり10頭前後の犬や猫たちがまだ見ぬ主を待っています。 それよりも、はるかに多い動物たちが愛護センターや保護団体さんたちのところで飼い主の迎えや、新しい主を待っているのも事実です。 本当に愛護を目指すならば、ショップのかずを減らしていき、最終的にはなくし、保護された犬たちだけの主を探す県を目指してほしいです!! 多くは他県のブリーダーさんから…でもありますし、幼くしてはるばる来ていることを思うと… 我が家にも保護犬がおり、数年たってやっとなどもに食べてくれたり散歩行けたり…と確かに手間こそかかりますが、その分、育てがいもあり、情もわいてきています。 長くなりましたが、本気でゼロを目指す徳島県にしませんか?! 決して簡単ではなくとも、いろんな意味で徳島県に有益ではないでしょうか。
2	自転車ヘルメットの補助について	自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務となり、購入に際し補助金が出るのは大変ありがたいと思いました。 ただ、対象年齢が限定されているので、自分や職場、周りの人達は、ことごとく対象となりません。 パートで勤め先に向かうのに自転車を利用する人は多くいます。もちろん、多くの収入があるわけでは無い中で、今回のヘルメット購入の出費は、なかなかなものですよ。 もう少し対象範囲を広げていただけると有り難いです。 せめて、県内のお店で購入したりしたら補助が出るとかにして貰えるといいのですが…。そうすれば地元の経済も回りますし。 どうぞ宜しくお願い申し上げます。
3	交通マナーの悪さ	徳島県に引越してきて、半年が経つ者です。 普段の生活の中で強く感じる事は、車や自転車の交通マナーが非常に悪いです。 これまで6つの都道府県に住んだ経験がありますが、圧倒的に徳島県のマナーが悪いと感じています。 車は赤信号無視、進路変更や右左折ではウinkerを出さない(出しても右左折開始と同時に)。自転車は赤信号無視はもちろん、歩道を2台3台並走したり、車道を逆走しています。 これらが無くならない理由の一つに取り締まりがきちんとなされていない事が挙げられると思います。 通勤通学の時間帯に、交差点に警察官が立っている期間がありましたが、立っているだけで注意すらしていませんでした。 小さな子供を育てているため、安全のためにも至急改善されるよう対策を講じていただきたい。
4	国道192号線東みよし町内について	近年、国道改修が順次行われて、つるぎ町～東みよし町区間もようやく道路がきれいになりましたが、過積載トラックの通行で既に路盤が痛んでいる箇所があります。材木の過積載トラックが転倒事故や落下物事故を起こすと大事故になるため、過積載取締りはしっかりやって頂きたいと思ひます。せっかくきれいに国道が直った所ですが、既に痛んでしまっている所はパッチ改修しないと仕方ないかと思ひますが、過積載トラックの取締りを強化しないとイタチゴッコになってしまいますから、通行の安全管理の観点からも積載取締りはしっかりお願いします。国道事務所へも連絡をお願いします。
5	ショップでの犬猫の販売について	県内では、ペットショップや一部のホームセンターなどで犬猫の生体が販売されています。しかも（こんな言い方はしたくありませんが）売れ残ったのか小さなゲージに大きくなった犬猫が入れられ、セール品として並んでいる場面もあります。 生きていて、命があるのに、「販売」されている子たちは、いったいどんな思いだろうと考えてしまいます。 犬も猫も、昔から当たり前のように人の近くで生きています。わざわざ「販売」しなくても、保護された子たちがたくさんいますし、悲しい気持ちになります。 お店は命を「売る」のではなく、保護団体や愛護センターなどと連携し、犬猫の保護情報を発信してはどうでしょうか。 そして、自治体も、ショップでの生体販売を禁止する条例を作ってもらえないでしょうか。 ペットは、終生お世話をすると思えば、ショップで、フード、おもちゃ、トイレ用品など購入するために頻繁に通うことになります。生体販売を止めたところで、経営が成り立たなくなるほどの打撃になるとは思いません。 また、保護団体や愛護センターはマイクロチップ挿入や去勢・避妊を条件に譲渡している（愛護センターは手術後に譲渡されます）ので、多頭飼育の崩壊も防止できると思ひます。収容された子たちの飼い主が決まれば、また新しい保護犬猫を収容することもできます。 たくさんの犬猫たちが、家が無く、過酷な状況で生きています。その子たちを救う取り組みをお願いしたいと思ひます。